

第二インタナショナルのシュトゥットガルト大会

1907年8月18～23日までひらかれた。

ロシア社会民主労働党は37名の代議員をおくっていた。ポリシェヴィキを代表して、レーニン、ルナチャルスキー、リトヴィノフその他が参加した。

大会の基本的な活動は小委員会に集中された。レーニンは「軍国主義と国際紛争」の問題にかんする小委員会に参加した。レーニンはローザ・ルクセンブルグといっしょに、ベールの出した決議案にたいして、社会主義者は戦争によって作りだされた危機を大衆の決起と資本主義の打倒のために利用する義務があるという、歴史的な修正案を提出した。この修正案は大会によって採択された。(なお、この大会については、レーニンの二つの同名の論文『ジュトゥットガルトの国際社会主義者大会』、第13巻、67～74および75～84ページを参照)。

第二インタナショナルのコペンハーゲン大会

1910年8月28日～9月3日にひらかれた。

ロシア社会民主労働党からは、レーニン、プレハーノフ、ルナチャルスキー、コロンタイ、ポクロフスキーその他が代表として出席した。個々の問題についての予備的審議と決議案の作成のために、いくつかの小委員会がつけられた。レーニンは協同組合小委員会で活動した。

大会で採択された決議『軍国主義および戦争にたいする闘争』は、ジュトゥットガルト大会の決議『軍国主義と国際紛争』を確認し、さらに、反戦闘争において社会主義議員が議会で陳述すべきものとして、つぎのような要求を提案した。(一) 国家間のあらゆる紛争をかならず国際仲裁裁判所の決定にゆだねること、(二) 全般的に軍備を縮小すること、(三) 秘密外交をなくすこと、(四) すべての民族に自治をあたえ、軍事的攻撃や迫害から彼らをまもること。

第二インタナショナルのバーゼル大会

1912年11月24～25日にひらかれた。

これは、当時のバルカン戦争および切迫していたヨーロッパ戦争と関連して召集された臨時大会であった。第2日の会議で、有名なバーゼル宣言が採択された。この宣言は、きたるべき世界戦争が帝国主義的本質のものであることを強調し、万国の社会主義者に積極的な反戦闘争を呼びかけた。(なお、バーゼル宣言については、本巻、202～212および314ページを参照)。

バーゼル宣言 第二インタナショナルのバーゼル臨時大会で採択された有名な宣言。

これは、きたるべき世界戦争が帝国主義的性格のものであることを強調し、万国の社会

主義者に積極的な反戦闘争を呼びかけていた。また宣言は、万一戦争がおこったばあいには、社会主義者は戦争がひきおこす経済的および政治的危機を利用して、社会主義革命のためにたたかうように勧告していた。

第二インタナショナルの指導者カウツキー、ヴァンデルヴェルデその他は、大会ではこの宣言の採択に賛成したが、実際に 1914 年に世界帝国主義戦争が始まると、彼らはバーゼル宣言をわすれ、それぞれ自国の帝国主義政府を支持するにいたった。

ツィンメルヴァルドとキンタールの国際社会主義者会議

事項訳注 P414 ~ 415

スイスでひらかれた国際派社会主義者の二つの国際会議のこと。

第一回国際社会主義者会議＝ツィンメルヴァルド会議

1915 年 9 月 5 ～ 8 日（新暦）にツィンメルヴァルドでひらかれた。会議では、レーニンを先頭とする革命的国際主義者と多数をしめるカウツキー派とのあいだに、闘争が展開された。レーニンは国際主義者の左派を結集してツィンメルヴァルド左派をつくったが、このグループのなかで戦争にたいする唯一の正しい、徹底的に一貫した国際主義的立場をとったのは、ボリシェヴィキ党だけであった。

会議は、世界大戦を帝国主義戦争とみとめた宣言を採択し、軍事費に賛成投票したりブルジョア戦時内閣にくわわったりした「社会主義者」の行為を非難し、ヨーロッパの労働者にたいして、戦争に反対し、無併合と無賠償の講和のために闘争を展開することを呼びかけた。

会議はまた、戦争犠牲者にたいする同情決議を採択し、国際社会主義委員会（I・S・K）を選出した。

ツィンメルヴァルド会議の意義については、レーニンの論文『第一步』と『1915 年 9 月 5 - 8 日の国際社会主義者会議における革命的マルクス主義者』（本全集、第 21 巻、397 - 403 および 404 - 408 ページ）を参照。

第二回国際社会主義者会議＝キンタール会議

1916 年 4 月 24 ～ 30 日（新暦）にキンタールでひらかれた。この会議では、ツィンメルヴァルド会議のときよりも、左翼は結束していて強力であった。レーニンは、社会平和主義と国際社会主義ビューローの日和見主義的活動との批判をふくんだ決議をとすのに成功した。キンタールで採択された宣言と決議は、国際反戦運動の発展におけるいっそうの前進を現わしている。

ツィンメルヴァルドとキンタールの両会議は、国際主義的分子の分離と結集を促進したが、しかしこれらの会議は一貫した国際主義的立場をとるにいたらず、帝国主義戦争の内乱への転化、戦争における自国の帝国主義政府の敗北、第三インタナショナルの結成という、ボリシェヴィキの政策の基本的命題を採択しなかった。